

学校司書 石川100%達成

2016.4.8 10時45分

石川県内の全千九百町立小中学校の図書館に「学校司書」が配置されたことが、県教育委員会のシンクタンク「いしかわ教育総合研究所」の調査で分かった。全国の配置率が六割に届かない中、県内の自治体では配置が進み、本の貸出冊数が大幅に増える効果も出ている。(福川真由子)

市町立小中校調査

学校司書は学校図書館で資料の展示や分類、提供を担い、司書教諭と連携して授業に協力する。必要な資格は自治体によって異なる。二〇一五年四月現在の改正学校教育法で小中学校の図書館に置くことが努力義務になった。教育委員会は二〇一二年から調査を始め、一六年秋の集計で全県配置が判明。富山県内の配置率は一六年四月現在で小学校94%、中学校88%。金沢市は一五年から全小中学校に配置。一五年度の一人当たりの年間貸出冊数は小学生が七六・三冊、中学生が二二・六冊で、三年前からそれぞれ三十一冊、七冊

貸し出し増 広がる本の世界



日当たりの本を借りたり読んだりする児童が賑々と集まる豊秋の図書館。金沢市森山町小で

石川県内で学校司書の配置は進んだものの、91%は非常勤や臨時職員などの非正規雇用。待遇面に課題が残る。正職員を雇用しているのは福山市、白山市、川北町、津幡町、宝達志水町。計二十人のうち、白山市は最多の十五人を雇用する。三人が育児休業中のため、現在は育休の代替を含めて十五人は非常勤。任期は原則一年だが「専門性が高いため、本人の希望で更新できる。更新の期限もない」(職員課)。金沢市は三十九人を雇用し、全員が非常勤職員。「公立図書館司書とは業務が違う。学校に特化し、勤務時間も週二十九時間

待遇面の課題残る

91%が非正規職員

に限られているため」(学校職員課)という。任期一年で、最長五年まで更新できる。白山、金沢両市とも育休を取れるが、その間は無給。任期が原則六カ月の臨時職員は県内の三割を占め、いしかわ教育委員会の古河尚訓事務局長は「非正規の中にも格差がある」と指摘する。全国でも非正規雇用は七割に迫る。公益社団法人全国学校図書館協議会の森田洋行理事長は「定年退職者の穴埋めを非正規職員で行う傾向が続いている。地方交付税の対象外である高校では非正規化が加速し、配置をよめる学校もある」と懸念した。

学校司書の配置状況 都道府県立学校や国立大学法人の付属校を含めた2016年度の文部科学省調査では島根、山梨両県がほぼ100%だったのに対し、青森県は小学5.5%、中学3.8%にとどまり、格差が生まれている。石川は小学92%、中学91%、富山は小学94%、中学88%、福井は小学80%、中学73%だった。

増えた。図書館に力を入れる金沢市森山町小学校の図書館長は本を採ったり、読んだりする児童が大勢集まり、一人当たりの年間貸出冊数は一一九・一冊に上る。学校司書の森田洋行さん(右)は週一回勤務。「心に残る本と出会ってほしい」と展示を工夫し、読み聞かせや授業で使う本の準備を行う。「児童も足を運びやすい。毎日いらしてらえたら」と司書教諭の石倉泉さん(左)は、松浦博田校長は「冊数は一つの目安。読書は知識だけでなく、思いやりや豊かな生き方につながる。格差を生まないため、本に触れる機会を学校がつくることが大切」と話す。金沢市千原町では司書一人が複数校を担当する。一校専任は小松、能美、白山、野々市、志賀の五市町のみ。いしかわ教育委員会の古河尚訓事務局長は「司書によって貸出冊数は大きく左右される。一校に司書一人が専任してほしい」と訴えている。